

教員名	平野 美恵子 (HIRANO Mieko)
所 属	国際教育センター
学 位	人文科学修士 (2005 お茶の水女子大学)
職 名	講師
URL/E-mail	http://www.ocha.ac.jp/introduction/structure/international/ hiramie@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

第二言語教育における教師研修 / 接触場面研究 / 多言語多文化教育 / 協働学習 / 異文化教育

◆主要業績

総数 (6) 件

- ・平野美恵子 (2005) 「多文化混成の日本語教育実習生による反対意見表明の変化 - 母語話者・非母語話者実習生間の異同に着目して -」『多言語多文化社会を切り開く日本語教育と教員養成に関する研究 2004 年』平成 16 年度 科学研究費補助金研究 基盤研究 B-2 研究成果中間報告書 (研究論文編) 研究代表者 岡崎眸, pp.45-53
- ・平野美恵子 (2006) 「多文化共生指向の日本語教育実習における実習生間の関係性-準備期間 3 ヶ月の話し合い分析-」『人文科学研究』2 号, pp.185-200 お茶の水女子大学
- ・平野美恵子 (2006) 「多文化共生指向の日本語教育実習における NS・NNS 実習生間の話し合い分析-3 ヶ月間の話し合いを通して構築されたティーチャー・コミュニティの実態-」『社会言語科学会第 17 回大会発表論文集』198-201

◆研究内容

多言語多文化社会を担う日本語教育教員養成の可能性と課題を追究するため、言語文化背景が多様な教員による協働の実態や、協働での教壇活動への取り組みが学習者にもたらす効果、そして教員間での協働的内省による自律的教員研修の可能性、等を研究課題として挙げ、研究に取り組んでいる。

これらの課題を実証的に検証するため、本学大学院日本語教育コースで実施されている「多言語・多文化社会を切り開く日本語教員養成」を主な研究のフィールドとし、母語話者実習生・非母語話者実習生間の協働の様相を、インターアクション分析の手法で、縦断的に研究を行った。

◆教育内容

国際交流室の専任教員として、海外留学を希望する学生を対象に、カウンセリング、留学準備の支援、異文化環境に対する助言・指導、などを行った。

さらに、留学に関する学内での情報発信力を高めるため、国際交流室のホームページ及び『海外留学の手引き』を作成した。ホームページは随時更新し、学内における国際交流の情報発信源となるよう努めた。また、留学経験者や留学希望学生の間でのネットワーク構築を行った。

◆Research Pursuits

I explored possibilities of teacher training programs for Japanese as a second language, oriented to multicultural society. The research topics to identify the possibilities were: 1) how multicultural teachers collaborate in a process of developing their own teacher community, 2) what impact the teachers' collaboration gives upon their learners, and 3) what is learnt by the teachers for their professional development through their collaborative reflection as teaching assessment.

A practicum taking a view of multicultural society in Japan, which is annually held at the department of Japanese as a second language, the graduate school of Ochanomizu University, was the research field. By analyzing interactions among multicultural student-teachers, data was longitudinally examined.

◆Educational Pursuits

I provided students interested in studying abroad with advisory service, procedural/ administrative support, and lectures about a cross-cultural environment.

I also created the webpage and handbook for the International Exchange Planning Office, which enhanced the office to release information regarding study abroad. Furthermore, I developed a social network among students who are interested in study abroad and experienced student exchanges.

◆将来の研究計画・研究の展望

- 1) 多言語多文化社会を視野に入れた、非母語話者日本語教員導入の可能性を探る。
- 2) 複数の教員による協働実践の効果に関する理論構築を行う。
- 3) 日本社会のグローバル化にともなう言語生活や異文化受容の変容を日本語教育に反映させる。

◆受験生等へのメッセージ

世界のグローバル化に伴い、海外経験は学生生活に不可欠な要素となりつつある。それと同時に、日本国内での「内なる国際化」が進んでおり、本学でも多くの留学生が学んでいる。様々な背景を持つ人々との交流の機会を多く設け、国際人としての知識と教養を養う環境づくりに尽力したい。